

大学・高専機能強化支援事業  
令和7年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和7年 12月 18日(木)	区分	支援1
選定年度	令和5年度	大学名	安田女子大学
設置等組織名	理工学部(生物科学科、情報科学科、建築学科)	設置・定員増員年度	令和7年度
事業計画名	安田女子大学 学部の新設		

1. 進捗状況の概要

(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況

- ・事業計画が概ね計画通り進捗していることが確認できた。学部の新設に合わせた施設や設備の充実も着実に進んでいる。

(2) 好事例や把握された事業の成果

- ・文系科目を選択可能な入試制度により、理系志向のある文系女子生徒の潜在的ニーズを掘り起こすとともに、入学前教育や入学後の学修フォロー体制を充実させることで、各学科の学びの基礎となる理数系知識の定着を図り、文系出身の学生でもスムーズに理工系の学びに入れるような仕組みが構築されている。

- ・既存のオープンキャンパス等とは別途、理工学部独自の学生募集イベントとして、中高生とその保護者を対象とした講演会や企業見学会等を実施し、理系人材の女性の働き方についてロールモデルを示している。

- ・大学独自に、対象となった学生は国公立大学と同等の学費で学べる理工学部向けの奨学金制度を設けている。

これらの取り組みが入学のきっかけとなった学生も多く、実際に入学した学生の満足度も高いことも伺えた。今後も女子大学の特質も活かしながら、地域や産業界のニーズに応じた女性理系人材を育てていくことに期待ができる。

2. 指摘事項(留意事項・参考意見)

(参考意見)

- ・理系志向のある女子生徒の潜在的ニーズを的確に捉えた学生確保の取り組みについて、より一層の発展が期待できる。ロールモデルとして、学生募集に課題を抱えている他の大学へもそのノウハウを広めてほしい。

- ・学生の理数リテラシーについては、今後も継続的な基礎学力の把握と丁寧な指導支援が必要である。

- ・3・4年次に開講されるプロジェクト型学習については、社会実装的な取り組みや新たな価値創造という観点において期待できるものとなっているので、低学年次に身に付けた基礎知識と接続できるよう教育体系を確立していくことが求められる。

- ・高度専門人材の育成のため、大学院進学も視野に入れたキャリアパスが重要となる。

- ・女性教員の更なる確保に努めてほしい(特に情報系分野)。女子学生の指導・支援のほか、理系分野で活躍する女性として学生にとって身近なロールモデルとなり、学生のキャリア構築にもつながるのではないかと。

- ・既存の文系学部とも連携し、女子総合大学としての強みや特色を活かして文理融合を進めていけば、より一層魅力的な人材が育つのではないかと。